

第 6 回 SSH 国際交流講演会 「国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化」

令和 8 年 1 月 28 日(水)16:00～18:00 に、本校、物理講義室にて第 6 回 SSH 国際交流講演会が実施され、生徒 70 名が参加しました。今年度 6 回目を迎える講演会の講師は、日本人として初めてキリバス国籍を取得したケンタロ・オノ氏でした。「国がなくなる？キリバス共和国と地球温暖化」という演題にてご講演頂きました。

ケンタロ・オノ氏(一般社団法人日本キリバス協会代表理事、前キリバス共和国名誉領事・大使顧問)

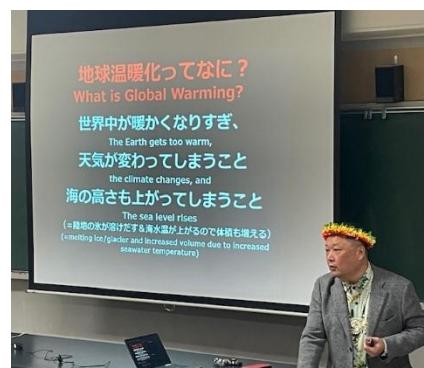
ケンタロ・オノ氏は仙台市に生まれ、幼少期から熱帯の海や島に憧れを持つ少年でした。小学 5 年生のときにテレビ番組でキリバスを知り、それ以来キリバスに興味を持ちキリバスに移住し高校に通われました。そして 23 歳の時キリバスに帰化しながらも、東日本大震災を機に日本に移住し、現在は地球温暖化や海洋プラスチック問題についての講演を様々な学校で行っています。



キリバスの海

講演について

今回の講演はキリバスの魅力の紹介から始まりました。キリバスの魅力は何と言っても綺麗な海です。しかし、キリバスでは教科書や給食の提供といった学校環境が十分に整備されておらず、子供たちは貧しさを抱えたまま熱心に学校で学んでいることを教えて頂きました。そのようなキリバスですが、現在では地球温暖化により海に沈む危機に瀕しています。地球温暖化は人間が引き起こした人災であること、決して人ごとでないことが熱い思いのこもった今回の講演で胸に深く響きました。「世界のリーダーとなる一高生の中から、環境保全のため行動する人間が出ることを期待します。」というケンタロさんの期待に応えることができればよいと思いました。



講演後、オノ氏に質問しました。

～Q&A～

- Q. 「キリバスに帰化すると決心したとき抵抗感はありませんでしたか？」
- A. 「全く抵抗はありませんでした。それはどの国にいても自分は自分で、人や世界を思う気持ちちは変わらないと考えていたからです。」

- Q. キリバスに行く際、奨学金等の経済的な支援はありましたか？

- A. ありませんでした。母親がシングルマザーとして収入を得ながら、月5万円仕送りしてくれました。

～参加者の感想～

自然の力を借りて共に生きることはエコで、どんどん取り入れていくべきだと思った。自分が危機に気づいた時には遅く、自ら今後の気候変動について学ぶことが世界のために自分には必要だと思った。いかに広い視野を持てるか想像を大切にしようと思った。(2年)

キリバスに対する熱意が多くの人を動かし、自分の夢をかなえる姿に感動した。私も自分も興味があることを見つけて熱意を持って取り組みたい。(2年)

地球温暖化を進めているのは先進国の私たちのなのに一番最初に影響を受けるキリバスのことはあまり考えていないという事実を知った。自分たちの行動次第では未来を変えられると思った。(2年)



キリバスの国旗



講演後質問する生徒

《編集後記》

今回の講演を聞き、SRtimesをまとめるなかで、地球温暖化の深刻さを改めて実感し、自分にできることをしようと意識が変わった人が多くいるとわかった。このSRtimesを読んで講演に参加できなかった人も、キリバスと地球温暖化に興味をもち、小さなことでも意識して少しづつ生活を変えてくれるうれしい。